

カメラロール喫茶の起床

鈴木はる香

レモンが植えられた皿の肌をなでる

コーヒーが息を吸って吐き出した、漂う白いベールが風に巻かれて渦になっている

私は黒色を白で操った

目に入ってきたものを網膜でじっくり触って、
降ってきた羽を逃がさないようにして、

次が浮かばない時は、髪で顔を覆う
外にいる私を、内側。内側へ。

「世界」

を何と言おうか
考えている

机の木の実に架かっている橋たちを、削るように指でなぞって問いかけてみる

が、応答はない

この詩の終わりが見えない

ケーキとコーヒーを中途半端に生き残らせてみた